



石研くらぶ

発行日:令和2年8月31日改訂版

発行者:石の宝殿研究会

080-4021-9095

「石の宝殿の魅力再発見とPR活動」

◆令和2年度高砂市未来戦略推進事業

国指定史跡

# 石の宝殿 竜山めぐり ガイドブック



石の宝殿研究会  
(石研くらぶ)

## 石の宝殿・竜山めぐりガイドブック目次

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 1 浮石のレプリカ     | 34 加茂神社               |
| 2 石材積み出し運河    | 35 魚崎の山の神             |
| 3 竜山の採石場      | 36 障幕島之助の墓            |
| 4 高砂市総合運動公園   | 37 サル岩と50mの岩壁         |
| 5 石材店         | 38 生石神社への道(龍門坂)       |
| 6 島村の山の神      | 39 生石神社能舞台            |
| 7 堰き止めと山すその清水 | 40 練り場                |
| 8 初級の竜山登山口    | 41 神輿蔵と御旅所            |
| 9 大きな石積の壁     | 42 1号古墳               |
| 10 間の川ポンプ場    | 43 国史跡碑とおんびき蛙         |
| 11 金時井用水      | 44 島津のお姫様の句碑          |
| 12 暗渠の操作ゲート   | 45 石の燈ろう              |
| 13 金時井用水の遺跡   | 46 絵馬堂                |
| 14 石下ろし坂      | 47 本社(割り拝殿)           |
| 15 4か所の石積み場   | 48 浮石                 |
| 16 山条の石切事業    | 49 霊岩                 |
| 17 塩市の登山口     | 50 岩肌に彫られた石の階段        |
| 18 塩市の山の神     | 51 宝殿山山頂              |
| 19 すきやねん竜山塩の会 | 52 食虫植物(石持ち草)         |
| 20 タヌキの穴      | 53 末社                 |
| 21 ウスの荒石      | 54 大ズワリ(座りキズ)         |
| 22 ジャイアント馬場岩  | 55 石の階段               |
| — 番外(観望郷)     | 57 家紋石                |
| 23 魚崎構居跡      | 58 天の磐船・教育センター        |
| 24 アンテナ塔      |                       |
| 25 竜山山頂       | A. 浮石の下は切れている         |
| 26 血の池        | B. 全て手彫りの芸術的 stone 造物 |
| 27 5号古墳と広場    | C. 伊保山は均質で粘り気のある岩     |
| 28 矢穴の岩       | D. 石の宝殿の製作ストーリー       |
| 29 観瀆處        | E. 生石神社は平安後期に建立       |
| 30 おにぎり岩(番外編) | F. 激変する大和の世相と支配者      |
| 31 加茂神社への階段   | G. 江戸時代は観光名所でした       |
| 32 法道仙人の空鉢塚   |                       |
| 33 芭蕉の句碑      |                       |

## 石の宝殿・竜山めぐり ガイドブック

◆MAPの説明ガイドブックです。

★研修センターから塩市へ向かうコース順で案内します

1 浮石のレプリカ … 研修センター入り口南  
一辺の寸法は5分の1 約4トン  
JR宝殿駅北側には4分の1 約8トンの物があります。

2 石材積み出し運河  
昭和15年ごろまでこの運河を使って積み出しをして  
いました。もう少し下流の石山橋の北側で堰止めし、  
水位を上げていました。(石積船の水位確保)

3 竜山の採石場  
東側半分は大きく削り取られています。  
東から見ると竜の姿に見えるようです。

4 高砂市総合運動公園(川の東側)  
総合体育館、陸上競技場、野球場、相撲場、  
テニスコートと高砂のスポーツ施設がここに集中  
しています。

5 石材店  
中村石材(島)、松下石材(生石)、西村石材(魚崎)が  
現在の採石業者です。明治33年国から払下げの許可  
を得て個人の所有地となる。(島村は龍山物産舗とした)  
塩市村でも現在32軒が山の土地を分け持っています。

6 島村の山の神  
元々は山の中腹に祀られていましたが H16年ここに  
移されました。火明命を祀る。棟木に天保12年(1841)  
神爪の大工が建てたと書かれていた由。





★ ようやくこれから山のぼりに入ります。

17 塩市の登山口

明姫幹線近くの山側道路沿いに「亀山登山入口」の道標があります。塩市の山の神の入り口でもあります。



18 塩市の山の神

かつては村の人は全て石切の仕事をしていました。切り出す人、仕上げる人、石積み職人は各地にも出掛けていました。(住金大阪本店の石積みなど)山の神と地藏堂があります。3つの明神さんがあり、もともと稲荷神社があり赤石の土台石がその名残りです。奥にド根性の大木があります。昔の台風で倒れた木はそこから頑張って枝を張り巡らしました。また、ここは子供たちの野球広場でもありました。



19 すきやねん亀山塩の会

6名の小さな会。さすがに石工さんが造った山道、しっかりした石の階段が組まれています。ただ危険な山道であり ゆっくり、無理せず登って下さい。



20 タヌキの穴

中にタヌキがいるか覗いてみてください。騙されないように。

タヌキ岩



21 ウスの荒石

仕上げる前に足の部分が折れ放置されたもの。丁場で荒引きまでしていました。

ウス石



22 ジャイアント馬場岩

塩の会会長のひらめきでのネーミングです。馬場の顔？足？ ジャイアント馬場を知らない子も。

一 番外(亀山の木席)

ジャイアントから少し上がったところ、南斜面に展望用の木席があります。ここに座って眺めているとふる里が見えてくるらしい？。しばしの休息を。



23 魚崎構居跡

北方に位置する志方城の出城と言われる。天正6年(1578)まで位田長兵衛が構主で、居館はおそらく山麓西南部にあった様です。『赤松家播備作城記』より



24 アンテナ塔

…携帯電話の電波塔です。



25 亀山山頂

360度の絶景のビューポイントです。明石大橋、淡路島、家島、小豆島…西には姫路城などが見える。頂上は6号古墳のあとながら、山条の人達が血の池の場所の土を積み上げ、愛称“でべそ山”になったらしい。米相場の連絡用のろし場であったとの説も。



26 血の池

山頂すぐ北の林の中にあり、かつていくさの時に大勢の戦士が無くなったところとの伝承。昭和の時代は 林もなくきれいな水溜まりでした。



27 5号古墳と広場

広場にはつつじや、時には吾亦紅などの草花が咲いています。食虫植物の石持ち草が群生して、5、6月に可憐な白い花を咲かせています。ここから観音處に行く道は 道標に従い脇道には入らないこと。危険！





### 28 矢穴のある岩

矢穴のある岩があちこちにあります。足元にも、



### 29 観瀾處

3大文字は永根文峰(ぶんぼう)19歳の時の書。  
早死にした息子の字を姫路藩の河合寸翁の許可を  
天保7年(1836)に得てこの大きな石に刻む。  
幅11m、高さ6.5mの岩肌、文字は1.6m角の大きさ



### 30 おにぎり岩(番外編)

観瀾處の大岩の右上にあり。落ちそうで落ちない、  
すべらない石として受験生がひそかに願掛けしている  
とか？(生石神社の算額にも願掛けするとよし)



### 31 加茂神社への階段

219段 一寸不揃いです。気を付けておきましょう。  
夏は蚊の大群に襲われます。虫除けスプレーが必携



### 32 法道仙人の空鉢塚

法道仙人は法華山でお経を唱えながら托鉢を飛ばす  
術が使えました。ある日干石船に飛ばしましたが船頭  
さんはケチで無視したところ、船の米俵全部が鉢に  
ついて山に飛んでいきました…中略  
托鉢を置いたところと言われています。



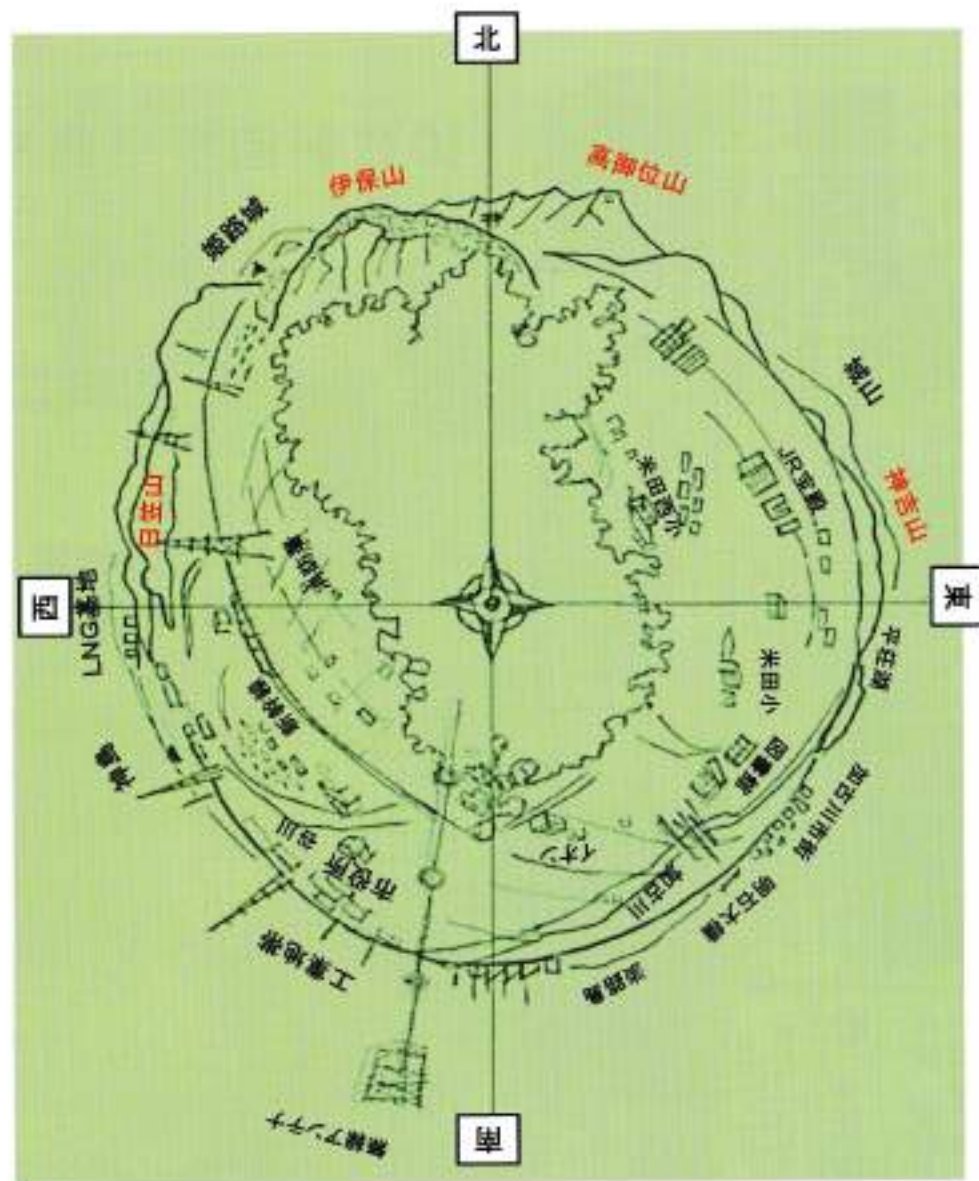
### 33 芭蕉の句碑

芭蕉を想って近在の俳諧愛好者が建立。

・花咲きて 七日鶴見る ふもとかな

花=桜は7日間咲く 鶴もおよそ7日間同じ土地に留まる

…のどかな桜の季節かな ・芭蕉が来たのは明石までです。



竜山山頂360°の展望



石の宝殿の歴史にふれながら  
春は桜、秋は真っ赤な紅葉と  
自然いっぱいの石の宝殿、竜山  
を楽しんで下さい。  
石の宝殿研究会

大正天皇行幸の碑



山頂のあずまや  
すばらしい眺めです

大ズワリが見れます



押してパワーを  
もらいましょう



岩肌を削り込んだ  
階段 すごい!



算額を見ておこう



169段の階段  
急な石段



★鳥津のお宿様の  
写碑と崖岩



国史跡碑とおん  
びき蛙の出迎え



ゴリラ岩の遠望



食虫植物「いしもち草」  
が群生しています



晴れた日は姫路  
城が見えます



教育センター  
で石造りの  
展示が見ら  
れます



生石橋



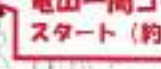
お花見スポット



総合体育館



天の磐船



V5サイズの浮石のレプリカ



野球場



昔ここを堰止めて石積  
み船で運びました



石の宝殿竜山めぐり

神社散策コース  
スタート (約40分)

竜山一周コース  
スタート (約70分)

矢穴のある岩が  
たくさん見えます



むかしの運河跡



階段219段  
ちょっと不難!



龍潭窟  
(おたぎの窟)



加茂神社



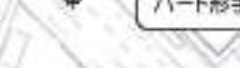
伊保の山の神



法通山人  
空鉢茶  
芭蕉句碑



神社内にある  
ハート形水鏡?



山頂:愛称でベソ山



360°の展望  
すばらしいー!  
姫路城も明石大橋  
も見れます



姫路LNG基地



夏は石が大きくなり  
歩きにくい



小さな道標、少し  
替って換して下さい



五号墳



竜山



魚崎橋居路



《竜山の木原  
ジャイアント馬場》



壺市の山の神さん  
呼んでから登りましょ



ワスの荒木



壺市の山の神



山梨登り  
タタキの穴



テニスコート



壺の山の神



金崎井用水



壺の川ポンプ場



金崎井用水  
加古川の水を伊保の  
水田まで引き入れました。  
(川の下にトンネルの  
水路)

堰止めし水位を上げた石  
の杭柱があります

山梨登山道は「すきやねん壺  
山塔の会」が造られた登山道  
で 且つ個人所有の土地を  
使わせてもらっています。よっ  
て自己責任のもと安全に万全  
を期し、火気厳禁、ゴミの持ち  
帰りを厳守願います。  
発行:石の宝殿研究会  
問合せ:  
080-4021-9095

壺の川ポンプ場

壺の川ポンプ場



#### 40 練り場

毎年10月の第3日曜日が秋の例祭です。恒例の神輿練りが行われるほか、岸、平津の屋台の練合わせ、竹割り、獅子舞、和太鼓演奏などにぎやかです。かつては東側に茶店があった様です。



神輿蔵



#### 41 神輿蔵と御旅所

神社内に御旅所があるため 秋祭りの宵宮に当番の村に運ばれ、翌朝村を回って 本宮の当日は拝殿、御旅所と練場の間を練りまわします。

御旅所



#### 42 1号古墳

神輿蔵のすぐ後ろが1号古墳で、石棺とその蓋がむき出しで見えます。採石場を纏めていた酋長の墓とも言われていますが詳しくは不明です。



#### 43 国史跡碑とおんぴき蛙

本殿への鳥居の下に国史跡碑とおんぴき蛙が出迎えてくれます。採石場の棟梁が夢枕に「カエルを彫って祀ると商売繁盛」とお告げを聴いた由。近くの村々でカエルの置物を探して見て下さい。カエルが赤石、史跡碑が黄石、玉垣が青石と龜山石を代表する3色の石で造られています。



#### 44 島津のお姫様の句碑

・たまにきて またこむことの かたければ  
なごり生石の 石の御社(みあくら)

和歌に秀でた3代当主 島津久季(ひさすえ)の娘かと言われている。句碑の横に腰掛岩があります。



#### 45 石の燈ろう

文政12年(1829)大阪世話人20数名が建造。参詣に来られた人の落書きなどが残っていたらしい。



#### 46 絵馬堂

文化13年(1816)建造の市文化財。算額のレプリカが掛かっており、本物は本社(拝殿)中央の上にあります。備中井原の佐藤善一郎一門の算額は東播磨では、ここと稲美国安の天満神社の2つしかありません。



#### 47 本社(割り拝殿)

右側に少霊古那を、左側に大穴年遅の2神を祀り、このような造りを「割り拝殿」といいます。S54年に屋根を銅葺きました。



#### 48 浮石 後ろの特別欄に要点を記載しています。

- 1)いつ、だれが、目的は…
- 2)作り方は南東上部のかどを基準に上から彫り込む
- 3)彫るだけでも10~20人で5~10年はかかる…



#### 49 壘岩

元からここにあり 下の面が座りキズで切れていることが明確で、これを根拠に浮石制作にかかったと推察される。パワースポットです。皆で押してみましよう。動くかも?



#### 50 岩肌に彫られた石の階段

(南斜面の方が手すりもあり登り易い)  
さすがに石工さんの仕事で、階段は滑らかで、リズム感のある階段です。玉垣は昭和4年建設で、日毛印南、福岡工業ほかいろんな業界、地方からの寄付が分かる



#### 51 宝殿山山頂

明治42年の大正天皇(皇太子時代)行幸の記念碑がたっています。初日の出を拝むのに絶景のポイントです。山頂を北に10mほどの地点からは 晴れた日は山間に姫路城が見れます。





## 52 食虫植物(石持ち草)

4~7月に宝殿山一帯で見ることが出来ます。

山頂北から少し下がったところに群生していますが急斜面です。神輿蔵の西斜面の方が見つけやすいかも。

(竜山5号墳の南広場でも見ることが出来ます)



## 53 末社

H29年に再建。生石神社は播磨巡覧図絵などによればもっと広く建物があった様です。



## 54 大ズワリ(座りキズ)

末社の下を北の方に行くと 下の岩場と奥の岩壁が直角になっているところに出ます。浮石をつくる前の状況を垣間見ることが出来ます。

(上部の岩を削り込んで浮石を造りました)



## 55 石の階段

169段の階段は約30°の急斜面で下半分は手すりがありません。足に自信のない人は練場の鳥居のところに戻り 緩やかな石畳の坂道を下りて下さい。

(近々にも階段の改修工事が予定されています)



## 57 家紋石

もともとは堀市山の北側の山麓にあったもの。採石により落下し2つに割れました。この家紋はどこにも無く、姫路藩の専売品となったのを記念して石工達が作ったものではと言われています。



## 58 天の磐船・教育センター

研修センターの駐車場に文化財の「天の磐船」が展示されています。天の磐船は伊保山の山腹にあった古墳の石棺の一部です。センターのロビーに観音處の3大文字の拓本が入り口正面に飾ってあります。

室内には歴史民俗資料室がありますし、屋外には石棺井戸枠、道標、灯籠などの石造品が展示されています。



## 浮石と歴史考察

### A. 浮石の下は切れている

①部(東側)の掘り込みは深さは約1.8m

浮石を東側に倒すときに回転しやすくしている

②部(浮石と台座との境目)は

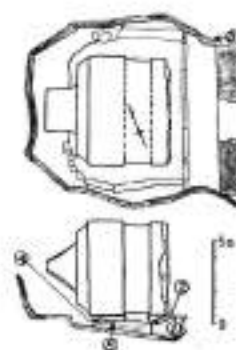
全周にわたって縁が切れていた

③の境目から浮石の設計行程を考えたのでは

◆浮石からの分岩と言われる霊岩は土台の岩盤とは分離 ベテランの石工が計画

④西側の切れ目に楔を入れる為? の凹部あり

⑤部(南側)に浮石の倒れ防止の為?の直方体のかまし板あり



### B. 全て手彫りの芸術的の石造物

1) 南東の上部角を基点に彫り込む

2) 浮石の上面をまず削り出す

3) 矢を打ち込んで岩をはがしていく



矢は30度ぐらいの角度で打ち込む

岩をはがす要領で独特の波状の痕跡が残る



### C. 伊保山は均質で粘り気のある岩

水成岩⇔堆積岩⇔凝灰岩

岩石の砕けた粒子+生物の遺骸が水中で堆積

\*石の宝殿(浮石)は流紋岩質溶結凝灰岩

青電山石

黄電山石(風化)

赤電山石(熱水)

## D. 石の宝殿の製作ストーリー

### ◆物部氏が全国支配の時代に建てたシンボリックな岩か？

大岩を伊保山に見つけ石の神殿・物部の記念碑 ★謎の多い浮石で諸説  
を造り国家の安寧を図ろうとした  
ありますが その内の

◆年月のかかる製作中の587年に守屋が死亡し製作  
を断念(石工達も徴用もあり継続できず) ひとつを紹介してい  
ます。

◆表面の仕上げ、輸送問題から今の地に建てる  
計画であろう

★加えて西から進出してくる仏教を  
この地でくい止めようとした神殿か ……

イザナギ、イザナミの  
千引きの岩を信じていた  
守屋の考えか？

## E. 生石神社は平安後期に建立

587年頃 物部氏の死亡で製作中断？大石が残る

759年 万葉集が編集 それ以降で神宿る石に

927年 式内社に記載なし

★1000～1100年に生石神社が建つ  
(平安時代の後期)

1181年 「播磨国内神明帳」に記載

1579年 羽柴秀吉の神吉城攻略時に焼失\*

1667年 姫路藩主の参拝あり この頃再建されていた

1752年～以降 西国大名・藩主など大勢の参拝記録あり

### 1807年 本社出火焼失

1852年 再建

\*神吉城攻略の2年後の 秀吉による播磨制定の  
時に神社側が従わなかったため焼かれた。



## F. 激変する大和の世相と支配者

・538年：仏教伝来 蘇我氏と物部氏の崇・排仏論争

・587年：蘇我氏との戦い(物部守屋没)

・593年：聖徳太子摂政～622年聖徳太子没

・630年：遣唐使派遣

・645年：大化の改新(蘇我入鹿が没)

・663年：白村江の戦(新羅と唐)

・710年：平城京に遷都 ・712年：古事記編纂

・715年：播磨国風土記編纂 ←物部守屋没後128年



## G. 江戸時代は観光名所でした

1667年 松平直矩 姫路藩主(石宝殿と旅日記で初めて書いた)

1692年 貝原益軒 本草学者

1752年 板倉根津守 備中庭瀬城主  
松平大善大夫 長州萩城主  
菅沼下野守 長崎奉行

1788年 司馬江漢 画家

1795年 小林一茶 俳諧師

1805年 伊能忠敬 測量家

1826年 シーボルト 林学館

1858年 歌川広重 画家

★殿さんの奉納金は  
12～16万円位だった。

★浮石はいつ誰が  
言い始めたのか？  
産りキズの岩を石工達は  
浮石と言い 早くから  
よばれていたかも

### ◆小林一茶の句

「十かえりの花 いくかえりの石室かよ」

(松の花は百年に一度花を咲かす

それを何度も繰り返す長い時間を経た石室であろうか)